



井の頭自然文化園開園100周年カウントダウン新聞

19号
2014年11・12月号

2014年(平成26年)11月1日

●編集・発行
いのきちさん編集委員会
編集長 川井信良
東京都三鷹市上連雀 1-12-17
株式会社文伸 気付
電 話 0422-60-2211
FAX 0422-60-2200
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力
東京都西部公園緑地事務所
東京都井の頭自然文化園
井の頭恩賜公園100年実行委員会
NPO 法人みたか都市観光協会
一般社団法人武蔵野市観光機構

●制作支援
株式会社文伸 / ふんしん出版

井の頭恩賜公園
開園100周年まで
あと2年6ヵ月

連載絵本 カモ次郎の巻 最終回
ヒナ達が無事に巣立ち、カモ次郎は弁天様にお礼を言いに来ました。その時に飛んで来るカワセミに気付く、「仲間が増えたね。」とカワセミのミドリに声をかけました。「池が澄んで、魚がよく見えるからね。」と教えられ、かいぼりのお陰でよみがえり始めた井の頭池を楽しみに生きようと、カモ次郎は思いました。

絵と文 せのうさちこ

せのうさちこ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。

INFORMATION 2014年11月~12月

井の頭自然文化園

●「ヤマネコ祭」—ツシマヤマネコってどんな動物? 対馬での今の状況は? 長崎県対馬に生息する絶滅危惧種ツシマヤマネコの保護と繁殖に取り組んでいる井の頭自然文化園では、2014年11月15日(土)、16日(日)を中心に、「ヤマネコ祭」を開催します。盛りだくさんのイベント、ぜひご参加ください。



メイン会場 芝生広場
内容 ヤマネコ関連団体の活動紹介展/クイズラリー/ワークショップコーナー/ヤマネコフェイスペイント/ねこバスふわふわ/三鷹の森ジブリ美術館 PRコーナー (※参加費が必要となるイベントもあります。)

- ヤマネコミニ講演会
● 場所: 動物園(本園) 資料館2階集客室 ● 定員: 60名(当日先着順の自由席です。)
11月15日(土) 第1回: 10時30分~11時30分
テーマ: ツシマヤマネコを守るために
—国内の飼育状況と井の頭自然文化園での飼育—
第2回: 13時30分~14時30分
テーマ: ツシマヤマネコの生息域内での現状と課題
11月16日(日) 第3回: 10時30分~11時30分
テーマ: ツシマヤマネコを守るために
—様々な研究とその成果を活用した取り組み—
第4回: 13時30分~14時30分
テーマ: 対馬の自然とツシマヤマネコ

● ヤマネコミニ特設展
ツシマヤマネコについて楽しく学べるミニ特設展を開催します。

● ヤマネコの絵本読み聞かせ
ヤマネコをテーマに、絵本の読み聞かせを行います。
11月15日(土)、16日(日) 各日11時30分~12時・14時30分~15時

● ヤマネコ祭ファイナーレコンサート
ヤマネコ祭の最後を、親子で楽しめるコンサートで締めくくります。
11月16日(日) 15時30分~17時頃まで

● 彫刻館特設展「ヤマネコ芸術祭」
10月28日(火)~11月30日(日) 9時30分~16時30分

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html>

井の頭恩賜公園
詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.i-np.jp/index.html>

井の頭かんさつ会

- 第115回「動物園」 11月29日(土) 10:00~12:00
- 第116回「テーマ未定」 12月20日(土) 夕刻(時刻未定)

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP <http://www.kansatsukai.net/> に載せます。

1級渡辺安浩 のいのけん受験講座 答え合わせ

Q1 (1) 江戸名所図会
全七巻のうち巻の四天現の部に「井頭弁財天宮」「井頭の池」として登場。

Q2 (3) 歌川広重
歌川豊広に入門、本名重右衛門より歌川広重の名を与えられる。

Q3 (1) 名所江戸百景
(見どころは「江戸百景」と覚える)

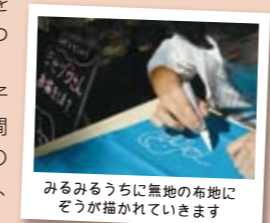
アートマーケットと ハズンアーティストな人々

Happy Elephantさん (イラストレーター/アクセサリー作家)

「幸せぞうさんお描きします」の看板につられてオーダーしたら、吉田玄さんの握る布ペンがトートバッグの上を滑り出しました。待つこと10分。下描きもせずに、リクエスト通りの「おしゃべりをする親子ぞう」の完成です。

玄さんは小学5年の遠足で行った多摩動物公園で「ぞうがどうやって寝るのか」に興味を持ち、以来、無類のぞう好き。全国各地の動物園に通い、ぞうをじいっと見て、その姿勢、体型、しわの様子などを記憶しています。イラストは1点1点、どこの動物園のどのぞうなのか、描き分けているというから驚きです。今年の春、高校卒業を機に母親でジュエリーアーティストの純子さんとユニットを結成。純子さんは、玄さんのぞうイラストをモチーフにしたペンダントやストラップなどをつくっています。

玄さんはお店中も午後2~3時には、はな子に会いに井の頭自然文化園に行きます。その間ライブペインティングはお休みですが、玄さんのポストカードや純子さんのアクセサリーとともに、純子さんが出迎えてくれます。



みるみるうちに無地の布地にぞうが描かれていきます

小田原 滯 (おだわら みお) 編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。
アートマーケットは、主に土・日・祝日に開催しています。特例で12月24日(水)は開催いたします。12月27・28日は開催いたしません。

19 今月の はな子

はな子の冬支度

季節が巡るのは早いもので、前回のいのきちさんで暑さ対策について紹介したばかりと思っていたら、今回はもう冬支度の話題です。今年の秋は例年になく涼しく、残暑をあまり感じさせないものでした。10月に入ると肌寒ささえ感じるほどで、寒がりのはな子にはつらい季節がやってきました。先日までの冷房を暖房に切り替え、シャッターを半開にして暖気を逃さぬよう注意します。さらに気温が下がれば、ガスヒーターを併用し、室内温度を25℃設定としますが、広い室内はそれより若干低めの温度に保たれます。

ちなみにはな子の大きな体が実際に温まっているか、毎朝放射温度計で体表温をチェックするのが獣医師の日課になっています。こうしたきめ細かい健康管理がはな子の長寿記録更新の秘訣といえるでしょう。

(飼育展示係長 山本藤生)

井の頭公園の生き物たち



ギギとの明暗

このナマズ(ナマズ科)のほか、井の頭池にはギギ(ギギ科)というナマズ目(もく)の魚がいました。両者は体型が似ているものの、尻びれと尾びれの形がまったく異なるので区別は容易です。どちらも本来は西日本の魚ですが、かいぼりでは、ナマズは在来生物として保護対象となり、ギギは国内外来生物とされ駆除対象になりました。外来生物法では明治時代以降に国外から持ち込まれた生き物を外来生物と定義しており、それに準じて、江戸時代に東日本に移入され、井の頭池にもかなり前から生息しているナマズと、近年井の頭池

に放されたと考えられるギギの処遇が分かれたのです。結局、かいぼりで保護されたナマズは約40匹、駆除されたギギは140匹以上でした。

ギギは稚魚も見つかり、繁殖していたことが確認されています。一方のナマズは、産卵場所として好む泥底で水深が浅く抽水植物が生えた水域も存在し、繁殖期の夜には産卵行動中のカップルも見かけるのに、稚魚や小さな個体が見つからない状況が近年続いていました。ところが、かいぼり後の5月、ナマズの稚魚が次々に発見されました。稚魚が見られなかったのは、コイやブルーギルやオオクチバスなどに卵や稚魚を食べられてしまっていたからだと分かったのです。ナマズは卵を産みっ放しにします。それに対してギギは、岩の間に卵を産み、それをオスが守ります。

ナマズの稚魚の成長は目を見張るほど早く、やがてザリガニワナに幼魚が夜の間に毎日複数入るようになり、9月には全長が30cmを超えるものも現れました。アメリカザリガニを食べていた外来魚が駆除された今、ザリガニを減らしてくれそうなる在来生物のエースです。もっとも、その大食漢ぶりからすると、在来の小魚やエビも相当数食べているに違いありません。しかしながら、長い歴史の中でナマズと共存してきた在来生物は、ナマズのせいで絶滅してしまうことはないと考えられています。



予想よりはるかに早く、前号が出る前の8月末に、カイツブリの楽園は一気に崩壊してしまいました。七井ペアの末っ子が死体で発見されたのを皮切りに、まだ飛べないはずのものも含め、井の頭池のヒナたちが全て姿を消したのです。ヒナだけでなく、親鳥たちも池を去って行きました。個々の事情は不明ですが、主因がブルーギル稚魚の激増による食糧難にあることは間違いないさそうです。ギル稚魚50匹の中に1匹いるかないないかのモツゴを見つけて捕まえるのは至難の業でしょう。

それでも一部の親鳥は池に留まり、今は移動期でもあるので、見かけるカイツブリが増えています。現在井の頭池にいるカイツブリたちは、在来生物だけでなく、ギルの稚魚も時々捕って食べているようです。とはいえ、子育てができるほどギル稚魚捕りの腕を上げるのは無理でしょう。楽園が復活するには、次回のかいぼりでブルーギルを今度こそ完全に駆除するしかないさそうです。

19 楽園崩壊

カイツブリの楽園

カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

井の頭かんさつ会 田中 利秋 <http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/>



写真 古賀 親宗 (こが もとのり)
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

古い絵葉書に写る舟は、「ハリガネワタシ」?

現在「七井橋」が架けられている場所に、かつて渡し舟があり、地域の人から「ハリガネワタシ」と呼ばれていたという話を前号でご紹介しました。それを読んで、「渡し舟と思われる絵葉書を持っていきます」とご連絡くださった方がいました。今回は、お借りした写真を眺めながら、推理推測してみることになりました。



▲「井ノ頭恩賜公園 弁財天ノ池畔」【絵葉書提供：ヨシモト氏】

「ハリガネワタシ」は、「複数の鋼索(こうさく)を池の両岸で固定し、乗った人がそれをたぐって対岸に渡る」という仕組みだったそうです。

お借りした絵葉書に写る舟には、3人の人影が見えます。1人は座り、2人は立っています。井の頭池の昔のボートといえば、これまで私が見たことのある写真では、人はみな座っていました。手漕ぎボートですから座って漕ぐのが常套で、同乗者も立つのは不安定ですから座る。ですから、舟上に人が立っているこの写真を見せていただいた瞬間、「渡し舟かもしれない」と思いました。

でもよく見ると、右手の岸边には柵が、そして柵の向こうには急勾配の屋根が写っています。この絵葉書は6枚セットになっていて、そこに含まれる別の写真に写っている弁天堂と並べて見ると、岸边の柵と屋根は、紛れもなく弁天堂のものだと判別できます。

そして写真の左側のこんもりとした樹木の奥に小さく橋が見えますが、やはり6枚セットの別の写真を見ると、その橋はボート小屋の脇に位置し、つまり現在の「泊江橋」の場所に架かっていた橋だということが分かります。

ということでは、この舟は現在「七井橋」がある場所ではなく、弁天堂の近くで撮影されたと推定され、そうなる「ハリガネワタシ」ではないと思われるのです。

安田知代

私と井の頭公園 その19

大好きな井の頭公園の連載絵本はうれしい仕事

瀬能幸子 (三鷹市在住)

今号は、本紙『いのきちさん』の巻頭を飾る「連載絵本」の作家せのつとみさんである。瀬能さんは、軽いアスペルガー症を克服しながら絵本作家を目指している女性である。この19号で3話目の話が終わり、次回20号からは、母けい子さんの「トラボレーション」による新シリーズが始まる。周りが、雑木林と玉川上水と小鳥の森という、緑に囲まれたお住まいに伺った。

小学校6年生の夏に、岩手県の盛岡からこの井の頭公園に近い三鷹に引っ越してきたのです。ですから中学校は三鷹三中です。そのころから、授業の合い間あいまに絵を描き続けている子供でした。美術系の専門学校を卒業後、アニメーションの制作会社に勤めたのですが、昼と夜が逆さまになるような勤務でしたので、身体が持たなくなり辞めることになりました。絵本作家を目指したいと思ったのはその頃です。

ちゅうどうそんなどき、葛飾区にあった水元青年の家で、半年に亘る絵本教室が開催されるのが分かり、「これだ」と思い通いました。そこで絵本作りの基礎を学ぶことができ、少し自信がついたことが大きかったですね。そして、自費出版をしたり、いろいろな絵本コンテストに応募していますが、なかなかプロの絵本作家の道は大変です。そんななかで『いのきちさん』の編集部から話があり、大好きな井の頭公園を題材にした連載絵本の創作は本当にうれしい仕事です。

読者の皆さん、頑張りますのでよろしくお願ひいたします。



習作した絵本



カメ吉の巻
カモ次郎の巻
コイ太郎の巻

(絵本作家 せのつとみ)
(聞き手・写真・川井信良)

川井信良(かわいしんりょう)
70年代80年代に、「三鷹」/「川井」/「たひじや」/「たかたか」を発行。

よみがえれ！井の頭池 19

水生植物の種が休眠から覚めた！

かいばり後のうれしい出来事の一つは「絶滅した」と思われていたシャジクモやヒロハノエビモなどの水生植物の復活です。かいばり前、井の頭池の底にはいっさい水草はありませんでしたが、池の水の透明度が大幅に向上し、光が差すようになって池底で休眠していた種が発芽したのです。

土の中で生存力を保っている種子たちは「土壌シードバンク」と呼ばれます。井の頭池のシードバンクについては、現在、東邦大学理学部生命環境科学科と千葉県立中央博物館が共同で研究中。発芽実験では、さらに希少性の高い種も確認されました。

「環境を整えれば、かつて生えていた水草がよみがえることが分かりました。浅瀬を造るなどの整備をこれから計画していきます」と西部公園緑地事務所の担当も活気づいています。水草が繁茂すれば水生生物のすみかにもなる。好循環が期待できます。

▼西部公園緑地事務所の敷地内に設置された1トンの水槽2つでも「シードバンク」が保管されている。

『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。「いのきちさん」は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発刊された100周年カウントダウン新聞です。名称は井の頭公園の「いの」、隣接する吉祥寺の「きち」、井の頭池が市内となる三鷹市の「さん」を並べたものです。(奇数月1日の隔月発行です)

「いのきちさん」のホームページができました！更新中！
<http://www.inokichisan.com/>

「いのきちさん」の感想やお問合せはメールでも受付けています。
✉ inokichi@bun-shin.co.jp

「いのきちさん」を置いていただける所を募集しています。

スマートフォンのQRコード

R100 VEGETABLE OIL LINK

第2回 1級渡辺安浩のいのけん受験講座

今回は、江戸時代に弁財天が描かれた浮世絵や井の頭弁財天が出てくる案内書についての問題です。

Q1 江戸時代の井の頭が出てくる書物で、神田雉子町の名主だった斎藤幸雄、幸孝、幸成の親子三代が編纂したものはなんですか？
(1) 江戸名所図会 (2) 武蔵名勝図会 (3) 新編武蔵風土記 (4) 四神地名録

Q2 江戸時代後期、井の頭弁財天を描いた浮世絵師は誰ですか？
(1) 喜多川歌麿 (2) 葛飾北斎 (3) 歌川広重 (4) 歌川国芳

Q3 『井の頭池 弁財天の社』を描いた江戸時代の有名な浮世絵師が江戸の見どころを118枚にまとめた大作は？
(1) 名所江戸百景 (2) 江戸名所百景 (3) 名所江戸図会 (4) 名称江戸図会

答えは裏面のインフォメーションのところだよ